

## CLUSTERPRO X 1.0、ウイルスバスター コーポレートエディション 8.0 インストール、設定手順

以下に、NEC CLUSTERPRO X 1.0 (以下 CLUSTERPRO) およびウイルスバスター コーポレートエディション 8.0 (以下ウイルスバスター Corp.) をインストールし、クラスタリング環境を構成する方法を記します。

### 目次

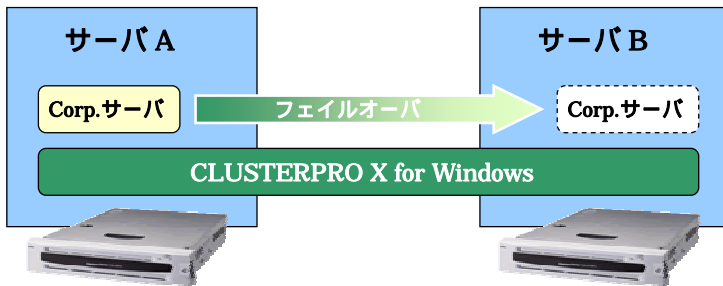
- 1.環境構成概要
- 2.インストール前に準備するもの
- 3.CLUSTERPRO とウイルスバスター Corp.サーバ組み合わせインストール
- 4.CLUSTERPRO とウイルスバスター Corp.クライアント組み合わせインストール
- 5.既知の制限事項
- 6.サポートについて
- 7.本ドキュメントにおける使用用語説明

### 1.環境構成概要

以下に、本手順でご説明する構成概要を記します。

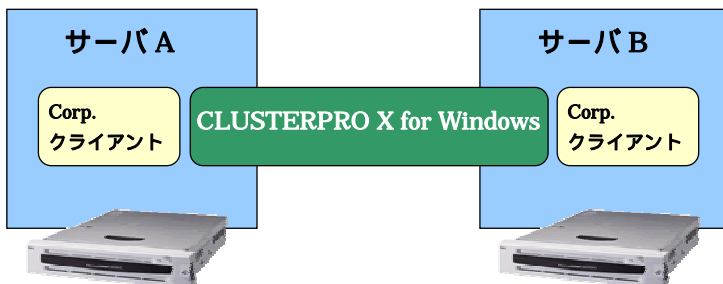
2 台のサーバでクラスタリングを構成します。

#### 1-1.ウイルスバスター Corp.サーバとの組み合わせ



CLUSTERPRO によって切替パーティションを設定します。本ドキュメントではこの切替パーティションを E ドライブとし、ウイルスバスター Corp.サーバは E ドライブにインストールします。

#### 1-2. ウイルスバスター Corp.クライアントとの組み合わせ



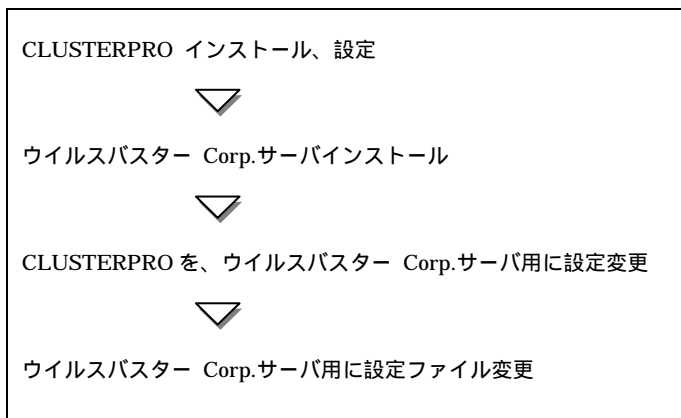
ウイルスバスター Corp.クライアントは C ドライブにインストールします。

### 2.インストール前に準備するもの

- 2-1. CLUSTERPRO X 1.0 インストール媒体
- 2-2. CLUSTERPRO X 1.0 for Windows 最新版アップデート
- 2-3.ウイルスバスター コーポレートエディション 8.0 インストール媒体  
CDROM もしくはインストールファイルを E ドライブにファイル配置してインストール実施
- 2-4. ウイルスバスター Corp. 8.0 Patch 1.1 (E ドライブにファイル配置)
- 2-5.CLUSTERPRO X 1.0 for Windows インストール&設定ガイド、リファレンスガイド  
(CLUSTERPRO のインストール方法、操作方法、各種パラメータの説明などに関しては上記ガイドをご確認ください。)
- 2-6.ウイルスバスター コーポレートエディション インストール&管理者ガイド  
(クラスタ環境特有のインストール方法、調整以外の一般的なウイルスバスター Corp.のインストールに関しては上記インストールガイド、管理者ガイドをご確認ください。)
- 2-7.有効なウイルスバスター Corp. 8.0AC (アクティベーションコード)

### 3.CLUSTERPRO とウイルスバスター Corp.サーバ組み合わせインストール

CLUSTERPRO とウイルスバスター Corp.サーバの組み合わせインストールは、以下の手順で行います。



### 3-1.CLUSTERPRO インストール手順

3-1-1.クラスタリング両サーバ（サーバA、サーバB）に管理者権限でログイン可能なことを確認します。

3-1-2.CLUSTERPRO をインストールします。（両サーバ）

3-1-3.CLUSTERPRO 最新版アップデートを適用します。（両サーバ）

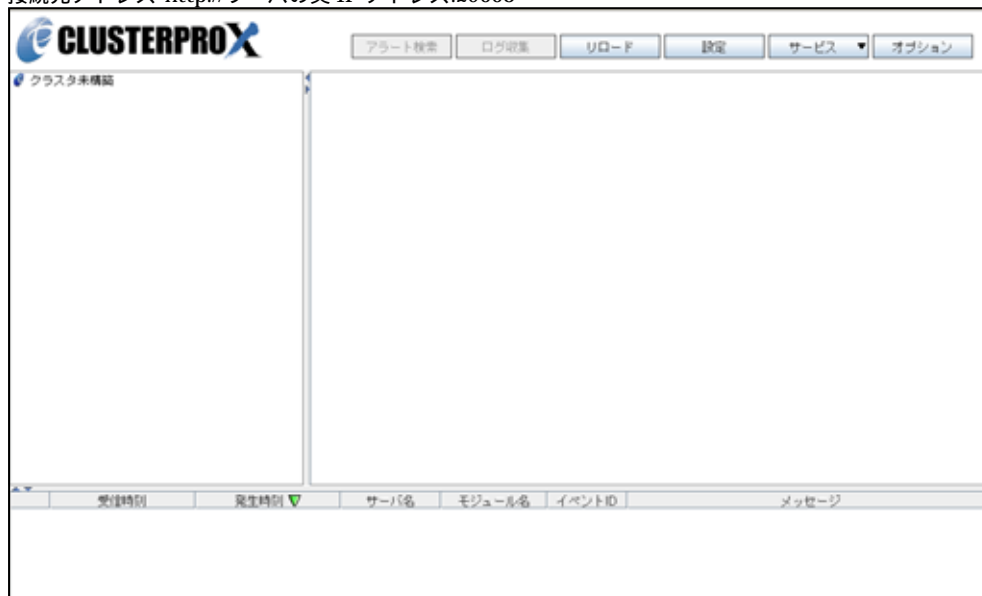
3-1-4.OS を再起動します。（両サーバ）

3-1-5.Java Runtime Environment がインストールされていない場合はインストールします。（両サーバ）

Java Runtime Environment Version 5.0 Update 6 (1.5.0\_06) 以降を適用してください。

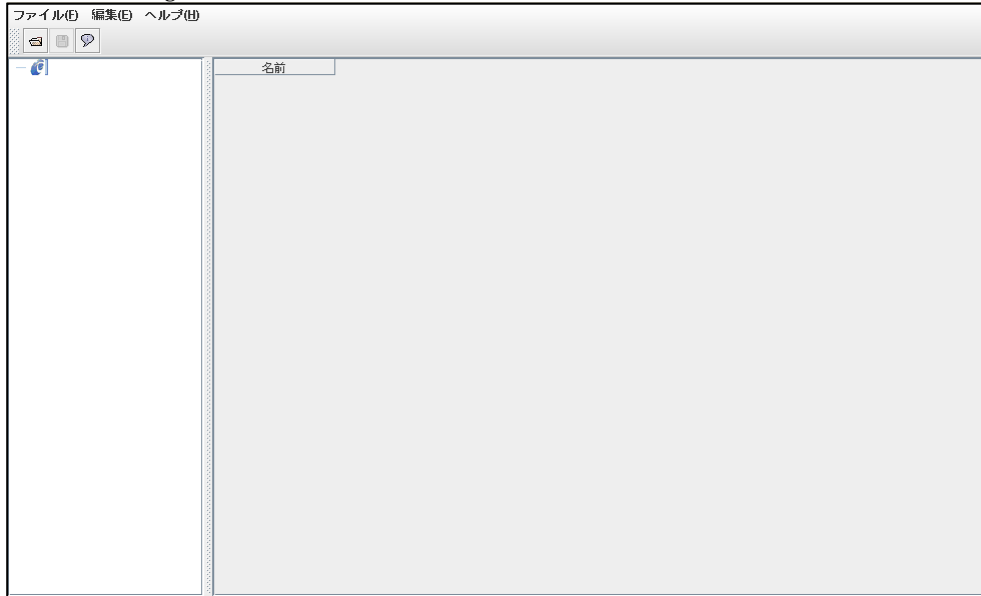
3-1-6.Web ブラウザを起動し、Cluster Manager に接続します。

接続先アドレス”http://サーバの実 IP アドレス:29003”



3-1-7. CLUSTERPRO の設定をします。

Cluster Manager にて、「設定」をクリックし、Cluster Builder を起動します。



設定例

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク 使用時)	設定値 (ミラーディスク 使用時)
クラスタ構成	クラスタ名	cluster	cluster
	サーバ数	2	2
	管理用グループ数	1	1
	フェイルオーバーグループ数	1	1
	モニタリソース数	5	6
ハートビートリソース	カーネルモードLANハートビート数	2	2
サーバAの情報 (マスタサーバ)	サーバ名	server1	server1
	インタコネクットの IP アドレス (専用)	10.0.0.1	10.0.0.1
	インタコネクットの IP アドレス (バックアップ)	192.168.0.1	192.168.0.1
	パブリックの IP アドレス	192.168.0.1	192.168.0.1
	COM I/F	COM1	-
	ディスク I/F	D:	-
	PingI/F	-	-
	多数決I/F	-	-
	ミラーコネクットI/F	-	10.0.0.1
	HBA	共有ディスクに接続し ているHBA	-
サーバBの情報	サーバ名	server2	server2
	インタコネクットの IP アドレス (専用)	10.0.0.2	10.0.0.2

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク 使用時)	設定値 (ミラーディスク 使用時)
	インタコネクの IP アドレス (バックアップ)	192.168.0.2	192.168.0.2
	パブリックの IP アドレス	192.168.0.2	192.168.0.2
	COM I/F	COM1	-
	ディスク I/F	D:	-
	PingI/F	-	-
	多数決I/F	-	-
	ミラーコネクI/F	-	10.0.0.2
	HBA	共有ディスクに接続し ているHBA	-
管理用のグループ (WebManager 用)	タイプ	フェイルオーバー	フェイルオーバー
	グループ名	ManagementGroup	ManagementGroup
	起動サーバ	server1 server2	server1 server2
	グループ リソース数	1	1
管理用グループのグループリソ ース	タイプ	フローティングIPリソ ース	フローティングIPリソ ース
	グループ リソース名	ManagementIP	ManagementIP
	IPアドレス	192.168.0.11	192.168.0.11
業務グループ	タイプ	フェイルオーバー	フェイルオーバー
	グループ名	failover1	failover1
	起動サーバ	server1 server2	server1 server2
	グループ リソース数	3	3
1 つ目のグループリソース	タイプ	フローティングIP	フローティングIP
	グループリソース名	fip1	fip1
	IP アドレス	192.168.0.12	192.168.0.12
2 つ目のグループリソース	タイプ	ディスクリソース	ミラーディスクリソース
	グループ リソース名	sd1	md1
	ディスクリソースドライブ文字	E:	-
	ミラーディスクリソース クラスター パーティションドライブ文字	-	D:
	ミラーディスクリソース データパー ティションドライブ文字	-	E:
3 つ目のグループリソース	タイプ	仮想コンピュータ名リソ ース	仮想コンピュータ名リソ ース
	グループ リソース名	vcom1	vcom1
	仮想コンピュータ名	vcom	vcom
	対象FIPリソース名	fip1	fip1
1 つ目のモニタリソース	タイプ	フローティングIP監視	フローティングIP監視

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク 使用時)	設定値 (ミラーディスク 使用時)
	モニタリソース名	fipw1	fipw1
	NIC Link Up/Down を監視する	オン	オン
	対象リソース	fip1	fip1
	回復対象	fip1	fip1
	再活性化しきい値	1	1
2 つ目のモニタリソース (仮想コンピュータ名リソース作成後自動作成)	タイプ	仮想コンピュータ名監視	仮想コンピュータ名監視
	モニタリソース名	vcomw1	vcomw1
		vcom1	vcom1
	回復対象	cluster	cluster
	最終動作	クラスタサービス停止とOSシャットダウン	クラスタサービス停止とOSシャットダウン
3 つ目のモニタリソース (ミラーディスクリソース作成後自動作成)	タイプ	-	ミラーコネクタ監視
	モニタリソース名	-	mdnw1
	ミラーディスクリソース	-	md1
	回復対象	-	md1
	最終動作	-	何もしない
4 つ目のモニタリソース (ミラーディスクリソース作成後自動作成)	タイプ	-	ミラーディスク監視
	モニタリソース名	-	mdw1
	ミラーディスクリソース	-	md1
	回復対象	-	md1
	最終動作	-	何もしない

必要に応じて他の設定をします。(ディスクやネットワーク監視などの設定)

### 3-1-8.設定ファイルをアップロード

Cluster Builder にて、「ファイル」「情報ファイルのアップロード」をクリックします。  
アップロードが成功し、「マネージャ再起動」、「クラスタ開始」を要求されます。  
「マネージャ再起動」 Cluster Manager にて、「サービス」「マネージャ再起動」  
「クラスタ開始」 Cluster Manager にて、「サービス」「クラスタ開始」

### 3-1-9.ミラーリング自動開始 (ミラーディスク使用時)

E ドライブが自動でミラーリング開始となります。  
完了すると、Cluster Manager の「Monitors」が緑に変わります。ミラーリング中は黄色。  
以上でウイルスバスター Corp.サーバインストール前の CLUSTERPRO の設定は完了です。

### 3-2.ウイルスバスター Corp.サーバインストール前確認要事項

#### 3-2-1.サーバ A の E ドライブのみアクセス可能な状態であること。

サーバ B の E ドライブはアクセス不可の状態であること。

逆にサーバ B の E ドライブがアクセス可能な場合は、Cluster Manager にて、3-1-7 で作成した業務グループ全体を右クリックし、「移動」を選択し、サーバ A にフェイルオーバーさせます。

#### 3-2-2.業務グループのリソースが全て起動済みであること。

#### 3-2-3.その他、一般的な (クラスタリングに限らず) 環境にウイルスバスター Corp.サーバをインストールする場合のサーバ側条件を満たしていること。

### 3-3.ウイルスバスター Corp.サーバインストール手順

#### 3-3-1.サーバ A よりインストールを開始します。

方法としては以下の 2 通りです。

ウイルスバスター Corp. 8.0 インストール CDROM より setup.exe を起動。

切替パーティションに設定した E ドライブにインストール媒体を置き、setup.exe を起動。

3-3-2. 以下は setup.exe を起動後のウイルスバスター Corp. サーバインストールウィザードの解説です。

インストール先：このコンピュータ

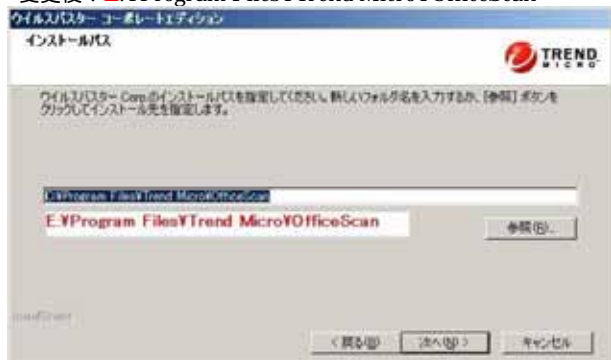
コンピュータの事前検索：任意で選択

インストールパス：

E ドライブにインストールしてください。

変更前：C:\Program Files\Trend Micro\OfficeScan

変更後：E:\Program Files\Trend Micro\OfficeScan

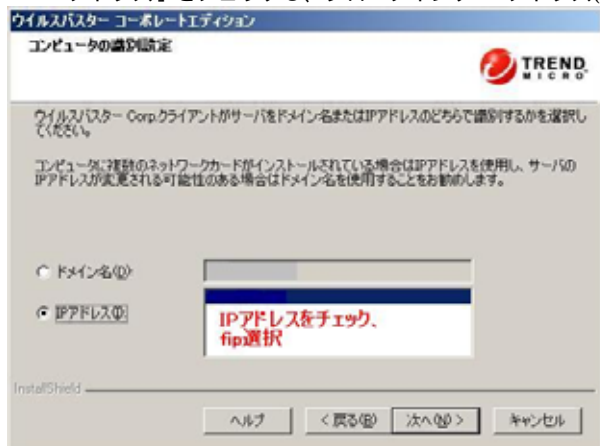


プロキシサーバ：任意で入力（インストールする環境による）

Web サーバ：任意で選択（IIS, Apache から選択可能）

コンピュータの識別設定

「IP アドレス」をチェックし、フローティング IP アドレス(fip)を選択します。



製品のアクティベーション：ご購入頂いたアクティベーションコードを入力してください。

他のウイルスバスター Corp. プログラムをインストール：任意で選択

Cisco Trust Agent アップグレード：任意で選択

（前ステップで Cisco Trust Agent インストールを選択した場合このステップが表示されます。）

ウイルストラッキングセンターへのウイルス情報送信：任意で選択

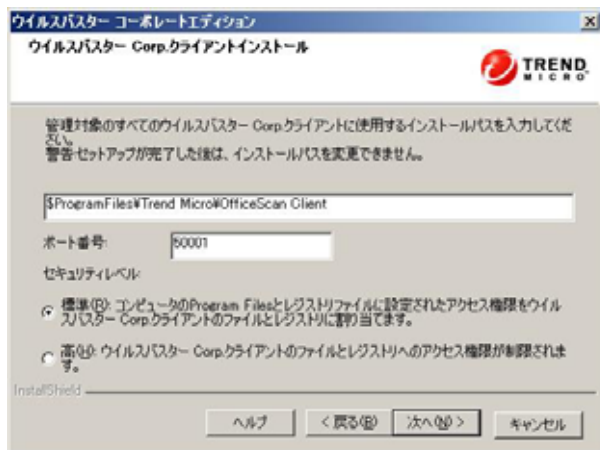
管理者アカウントのパスワード：任意で作成

ウイルスバスター Corp. クライアントインストール

インストールパス：\$ProgramFiles\$Trend Micro\OfficeScan Client（デフォルト）

ポート番号：任意（例：50001 など。後ほどサーバ B へのインストール時これと同一にします。  
このポート番号はランダムで決定されるため、注意が必要です。）

セキュリティレベル：任意でチェック



ウイルス対策機能：任意でチェック  
 スパイウェア対策機能：任意でチェック

3-3-3.ウイルスバスター Corp.サーバフェイルオーバー

Cluster Manager にて、3-1-7 で作成した業務グループを右クリックし、サーバ B にフェイルオーバーさせます。

3-3-4.ウイルスバスター Corp.サーバを、3-3 でサーバ A にインストールしたように、サーバ B でインストールします。

**パラメータは全てサーバ A と同一にします。**

3-3-5.ウイルスバスター Corp.サーバに Patch 1.1 を適用

E ドライブに置いた「corp80\_patch1.exe」をダブルクリックし、適用

3-3-6.サーバ A にフェイルオーバーし、同様に Patch1.1 を E ドライブから適用

3-3-7.両サーバにて、下記サービスを全て停止し、手動起動に変更します。

OfficeScan Master Service

OfficeScan Control Manager Agent

Trend Micro Policy Server for Cisco NAC ( Policy server がインストールされている場合 )

3-3-8. CLUSTERPRO を、ウイルスバスター Corp.サーバ用に設定変更

Cluster Manager にて、「設定」をクリックし、Cluster Builder を起動します。

設定例

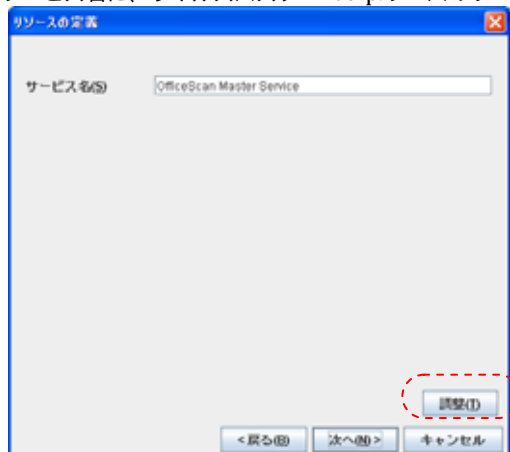
「3-1-7. CLUSTERPRO の設定」で設定した設定例に以下のリソースを追加します。

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク、ミラーディスク共通)
フェイルオーバーグループ	タイプ	フェイルオーバー
	グループ名	failover1
	起動サーバ	server1 server2
	グループ リソース数	7
4 つ目のグループリソース	タイプ	レジストリ同期リソース
	グループリソース名	regsync1
	レジストリキー	HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Trend Micro¥AntiBody Policy Service (上記、Policy serverがインストールされている場合)  HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Trend Micro¥Database Backup  HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Trend Micro¥OfficeScan  HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥Trend Micro¥Solar
5 つ目のグループリソース	タイプ	サービスリソース
	グループ リソース名	service_MasterService

設定対象	設定パラメータ	設定値 (共有ディスク、ミラーディスク共通)	
6 つ目のグループリソース	サービス名	OfficeScan Master Service	
	対象VCOMリソース名	vcom1	
	タイプ	サービスリソース	
	グループ リソース名	service_ControlManager	
	サービス名	OfficeScan Control Manager Agent	
	対象VCOMリソース名	vcom1	
	7 つ目のグループリソース (Policy serverがインストールされている場合)	タイプ	サービスリソース
		グループ リソース名	service_PolicyServer
サービス名		Trend Micro Policy Server for Cisco NAC	
対象VCOMリソース名		vcom1	
5 つ目のモニタリソース	タイプ	サービス監視	
	モニタリソース名	servicew_MasterService	
	対象リソース	service_MasterService	
	回復対象	failover1	
	再活性化しきい値	0	
6 つ目のモニタリソース	タイプ	サービス監視	
	モニタリソース名	servicew_ControlManager	
	対象リソース	service_ControlManager	
	回復対象	failover1	
	再活性化しきい値	0	
7 つ目のモニタリソース (Policy serverがインストールされている場合)	タイプ	サービス監視	
	モニタリソース名	servicew_PolicyServer	
	対象リソース	service_PolicyServer	
	回復対象	failover1	
	再活性化しきい値	0	

#### サービスリソースの設定

サービス名に、ウイルスバスター Corp.サーバのサービス名を設定し、[調整]ボタンを押します。



[サービスリソース調整プロパティ]画面が表示されます。  
 [対象 VCOM リソース名]に仮想コンピュータ名リソースを設定します。

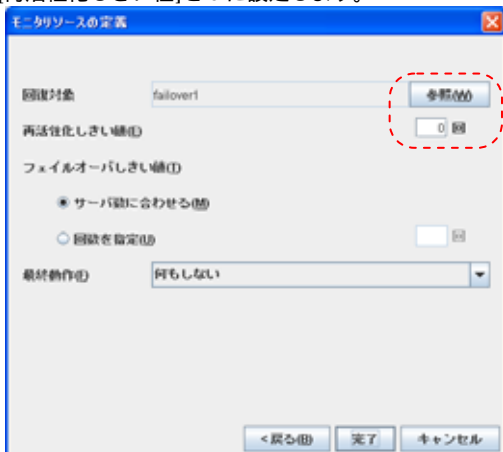


サービス監視リソースの設定

[参照]ボタンを押し、ウイルスバスター Corp.サーバのサービス名を設定したサービスリソースを選択します。



[参照]ボタンを押し、[回復対象]に業務グループを選択します。  
 [再活性化しきい値]を 0 に設定します。



### 3-3-9. 設定ファイルをアップロード

Cluster Builder にて、「ファイル」 「情報ファイルのアップロード」をクリックします。

その際、「グループを停止」、「クラスタサスペンド」を要求されます。

「グループ停止」 Cluster Manager にて、Group>failover を右クリックし、「停止」

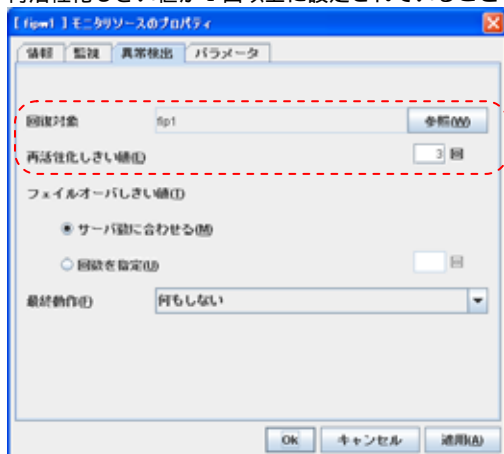
「クラスタサスペンド」 Cluster Manager にて、「サービス」 「クラスタサスペンド」

アップロードが成功したら、それぞれグループ起動、クラスタリジュームを実施します。

### 3-4. ウイルスバスター Corp.サーバ用に設定ファイル変更

#### 3-4-1. フローティング IP 監視による fip の再活性化を有効化

Cluster Builder にて、フローティング IP 監視の「プロパティ」「異常検出」より、回復対象を「参照」クリックし、グループの fip が選択されていること、再活性化しきい値が 1 回以上に設定されていることを確認します。(3 回など)



#### 3-4-2. IIS でインストールした場合、両サーバで以下の設定変更を実施

3-3-2 で、Web サーバに Apache を選択した場合、本作業は必要ありません。

「スタート」「管理ツール」「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ」にて、「サーバ名」「Web サイト」「既定の Web サイト」「officescan」を右クリック、「プロパティ」「ディレクトリセキュリティ」タブにて、「認証とアクセス制御」の「編集」をクリック  
ユーザー名とパスワードを administrator、そのパスワードを入力します。

#### 3-4-3. ofcscan.ini の変更

「E:\Program Files\Trend Micro\OfficeScan\PCCSR\ofcscan.ini」の

「MasterDirectory=¥¥<実サーバ名>¥ofcscan」の<実サーバ名>を、仮想コンピュータ名リソース (vcom) に設定した「仮想コンピュータ名」に変更します。

### 3-5. ウイルスバスター Corp.サーバアンインストール手順

#### 3-5-1. サーバ A よりアンインストール

Cluster Manager にてサーバ A を active にします。

#### 3-5-2. Cluster Manager にて、3-3-8 にて作成した、以下のリソースを右クリックから停止する。

- ・レジストリ同期リソース
- ・サービスリソース 1 (OfficeScan Master Service)
- ・サービスリソース 2 (OfficeScan Control Manager Agent)
- ・サービスリソース 3 (Trend Micro Policy Server for Cisco NAC) (Policy server がインストールされている場合)

#### 3-5-3. 「スタート」「設定」「コントロールパネル」「プログラムの追加と削除」より、ウイルスバスター Corp.サーバをアンインストールします。

#### 3-5-4. サーバ B より以下を実行

手動にて、以下の情報を削除します。

#### 警告

レジストリは Windows の構成情報が格納されているデータベースです。  
レジストリの編集内容に問題があると、システムが動作しなくなる場合があります。  
弊社ではレジストリの編集による如何なる問題に対しても補償いたしかねます。  
レジストリの編集はお客様の責任で行っていただくようお願いいたします。  
なお、レジストリの編集前には必ずバックアップを作成することを推奨いたします。  
バックアップ方法の詳細は、ご使用の Windows のヘルプをご参照ください。

#### レジストリキー

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥AntiBody Policy Service  
(上記、Policy server がインストールされている場合)  
HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥Database Backup  
HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥OfficeScan  
HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥TrendMicro¥Solar

HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Microsoft¥Windows¥CurrentVersion¥Uninstall  
¥OfficeScan Management Console-<サーバ名>

IIS の情報を削除 (IIS インストールの場合)

3-3-2 で、Web サーバに Apache を選択した場合、本作業は必要ありません。

「スタート」 「プログラム」 「管理ツール」 「インターネットインフォメーションサービス (IIS) マネージャ」より  
「サーバ名」 「Web サイト」を展開し、「OfficeScan」を削除します。

その他手動にてウイルスバスター Corp.サーバインストールの手順はトレンドマイクロサポートページ以下を参照してください。

<http://esupport.trendmicro.co.jp/supportjp/viewxml.do?ContentID=JP-2061897&id=JP-2061897>

3-5-5.Cluster Builder を起動し、3-3-8 でウイルスバスター Corp.サーバ用に設定した内容を全て削除、アップロード実行

#### 4.CLUSTERPRO とウイルスバスター Corp.クライアント組み合わせインストール

ウイルスバスター Corp.クライアントとの組み合わせで、CLUSTERPRO で設定することは特にありません。

ただし、CLUSTERPRO を運用しているサーバで、ウイルスバスター Corp.クライアントをインストール際に注意点があります。

##### 4-1.ウイルスバスター Corp.クライアントインストール時、後の注意点

以下はサーバ A、サーバ B が自分自身のウイルスバスター Corp.クライアントになる場合について記述しております。

また、ファイアウォール機能は、ウイルスバスター Corp. 8.0 アドバンス版にしかない機能となり、スタンダード版では以下の作業は必要ありません。

##### 4-1-1.ウイルスバスター Corp.クライアントをインストールする場合は、そのサーバ上にて CLUSTERPRO で設定したグループが起動していないこと。

例：サーバ A にウイルスバスター Corp.クライアントをインストールする場合は、ウイルスバスター Corp.サーバをフェイルオーバーしてサーバ B が active である必要があります。

##### 4-1-2.NIC のバインド順に注意

クラスタリング環境にあるサーバであるため、NIC が複数存在します。

「マイネットワーク」右クリックにて、「詳細設定」 「詳細設定」 「接続」にて、実 IP アドレス用 NIC がハートビート用 IP より上位であることを確認します。

##### 4-1-3.ウイルスバスター Corp.クライアントインストール後、CLUSTERPRO からのアクセスの為、NIC のファイアウォール設定を変更する必要があります。(ウイルスバスター Corp.アドバンス版のみ本作業実行、スタンダード版は必要ありません。)

それぞれの NIC で許可する必要があるポートは以下の通り

実 IP、仮想 IP を持つ NIC...TCP29001-5,7、UDP29003,29007, 29106

ハートビート用 NIC...ICMP、TCP29001-5,7、UDP29003,29007,29106

ウイルスバスター Corp.サーバ管理コンソールにて、

「ネットワーク上のコンピュータ」 「ファイアウォール」 「ポリシー」にて、「追加」クリック

名前 任意で入力

セキュリティレベル 中

ファイアウォール機能 全てチェック (デフォルト)

除外 「追加」をクリックし、上記ポートを入力

名前 任意で入力

処理 ネットワークトラフィックを許可 (デフォルト)

方向 受信、送信チェック (デフォルト)

プロトコル TCP,UDP 等必要ポート選択 (上記参照)

ポート：指定ポート番号にチェックし、ポート入力 (上記参照)



「保存」クリック

「ネットワーク上のコンピュータ」 「ファイアウォール」 「プロファイル」にて、「追加」クリック

名前 任意で入力

ポリシー 任意で入力したポリシー名

その他、任意で必要情報 (対象 IP アドレスなど) を入力

「保存」クリック

その作成した「名前」及び「クライアントのセキュリティレベル/除外リストを上書き」をチェックして、

「クライアントにプロファイルを割り当てる」をクリック



## 5. 既知の制限事項

本手順でご説明した環境での既知の制限事項は次のとおりです。

- 5-1. ウイルスバスター Corp. サーバインストール時、CDROM もしくは切替パーティションより setup.exe を、インストールパスを切替パーティションに向けて実行してください。CDROM もしくは切替パーティション以外から setup.exe を実行すると、アンインストール時に正常に動作しなくなる場合があります。その場合は手動でのアンインストールが必要となります。

[参考]手動アンインストール方法

<http://esupport.trendmicro.co.jp/supportjp/viewxml.do?ContentID=JP-2061897&id=JP-2061897>

- 5-2. ウイルスバスター Corp. サーバインストール時、コンピュータの識別設定で、IP アドレスをチェックし、CLUSTERPRO で作成した fip を指定してください。

- 5-3. ウイルスバスター Corp. サーバインストール後、Patch1.1 を適用してください。

- 5-4. ウイルスバスター Corp. サーバインストール後、Cluster Builder にて、フローティング IP 監視による fip の再活性化を有効にしてください。

- 5-5. ウイルスバスター Corp. サーバインストール後、IIS でインストールした場合、IIS マネージャにて、web サイト「officescan」のユーザー名を administrator に変更してください。

3-3-2 で、Web サーバに Apache を選択した場合、本作業は必要ありません。

- 5-6. ウイルスバスター Corp. サーバインストール後、¥Program Files¥Trend Micro¥OfficeScan¥PCCSRV¥ofcscan.ini の「MasterDirectory=¥¥<実サーバ名>¥ofcscan」の<実サーバ名>を、仮想コンピュータ名 (vcom) に変更してください。

- 5-7. ウイルスバスター Corp. クライアントインストールする場合、そのサーバが CLUSTERPRO 上で passive 状態 (もう一方が active 状態) で実行してください。

- 5-8. ウイルスバスター Corp. クライアントインストールする場合、NIC のバインド順を「実 IP アドレス用 NIC」 「ハートビート用 NIC」にしてください。

- 5-9. ウイルスバスター Corp. サーバインストール時、active 機を「スタート」 「設定」 「コントロールパネル」 「プログラムの追加と削除」より削除し、その後 passive 機を手動でアンインストールしてください。

[参考]手動アンインストール方法

<http://esupport.trendmicro.co.jp/supportjp/viewxml.do?ContentID=JP-2061897&id=JP-2061897>

## 6. サポートについて

- 6-1. 本環境 (CLUSTERPRO 上で動作するウイルスバスター Corp.) において問題等発生の場合は、まず CLUSTERPRO をご購入元にお問い合わせください。

- 6-2. CLUSTERPRO としてのサポートにおいて、原因がウイルスバスター Corp. 側であると判明した場合はトレンドマイクロがサポートいたします。

- 6-3. ただし、お客様の CLUSTERPRO ならびにウイルスバスター Corp. のご購入元、サポート契約の有無によってサポートプロセスが変更となる場合がございますのでご了承ください。

## 7. 本ドキュメントにおける使用用語説明

実 IP アドレス・・・そのサーバが active, passive 状態に関わらず常にインターネット接続用 NIC に所持する IP アドレス。  
(OS インストール時などに設定されるアドレス)

実サーバ名・・・そのサーバが active, passive 状態に関わらず常に所持するコンピュータ名。  
(OS インストール時などに設定されるコンピュータ名)

仮想 IP アドレス・・・CLUSTERPRO により割り当てられた、クラスタリング構成の複数のサーバで共有する IP アドレス。  
active 機のみ所持する。CLUSTERPRO では fip (フローティング IP) ともよぶ。

仮想コンピュータ名・・・CLUSTERPRO により割り当てられた、クラスタリング構成の複数のサーバで共有するコンピュータ名。  
active 機のみ所持する。

fip・・・「フローティング IP」の略で、CLUSTERPRO における仮想 IP アドレスのこと。

vcom・・・CLUSTERPRO における仮想コンピュータ名リソースのこと。